

自分を守る！

ビジネスにつなげる！

社会貢献をする！

20 レジリエンス教育を行っている例 / その他事例

1.	2.	3. その他防災関連事業者	4.
津波に耐えた貞山運河の桜の植樹による防災啓発活動			みやぎベジフル食彩事業創造委員
事例番号 163			会 Plan Teizan
■業種：複合サービス事業		■取組の実施地域：宮城県	
<ul style="list-style-type: none"> ● 伊達藩祖政宗公の命により開削された貞山堀は、明治時代に北上川と阿武隈川という、岩手・宮城・福島を流れる河川を結びつける日本最長の運河となった。東日本大震災後、津波に耐えた桜が各地で花を開かせ、甚大な被害を前にした人々の希望となった。 ● 宮城県名取市では、そうした桜の芽から、苗木を作り出す、「なとり復興桜」の活動がスタートした。同市の一般社団法人名取市観光物産協会は、地域団体等と連携し、この活動の推進役となってきた。この活動は、防風林の大多数が津波で損壊した貞山堀沿いに適切な苗木を植え、地域の人々が木を育てていくことで、津波の被害軽減という物理的減災と、被災の語り継ぎという教育的減災の効果をもたらすことを目的とする。この活動は、宮城県沿岸の貞山堀各地に広がりを見せている。 ● 同協会では、AR(拡張現実)手法を用いた観光構想を持つ地元の高校や、仙台空港を起点とした自転車のナビゲーション機能を用いた新観光名所化の案内といったアイデアを持つ市民団体「PlanTeizan(プランテイザン)〈貞山〉」と連携し、貞山堀を地域の観光振興につなげていこうとしている。市民団体「PlanTeizan(プランテイザン)〈貞山〉」では、同協会及び、貞山運河の歴史的意義について継続的に検討を進めている市民団体「貞山運河研究所」の協力の下、貞山運河とその減災機能を地域の〈次〉を作り出すための絆の証として、地域の次を考えるアイデアソン(アイデアマラソン)を開始している。 			